

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 1 生徒一人ひとりの持てる力を最大限に引き出す学校
- 2 希望する進路が実現できる学校
- 3 社会人として通用するマナーと社会人基礎力（考え抜く力、行動する力、コミュニケーション力）が獲得できる学校
- 4 質の高い教育により、人間性豊かな人材を育成する学校
- 5 生徒及び保護者が「入学して（入学させて）良かった」と思える学校

2 中期的目標

<※平成 26 年度からの 3 か年目標>

1 基本的生活習慣を自らコントロールできる生徒の育成 — 生徒指導の充実 —

- (1) あいさつ運動や生徒との対話を重視し、安心して学習に臨み、かつ魅力のある学校づくりをめざす。
- (2) 社会人として通用するルールやマナーについて、自ら考え自ら行動できる生徒の育成をめざす。
- (3) 生徒個々のニーズに寄り添い、生徒が相談しやすい生徒指導体制をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断における規律に関する項目における満足度（平成 25 年度 77%）を毎年 3%引き上げ、平成 28 年度には 86%にする。

2 夢や目標に向かって自ら努力できる生徒の育成 — 進路指導の充実 —

- (1) 現行の「3 年間を見通した進路指導」を発展させ、新しい教育システムに適合したキャリア教育指導を再構築する。
- (2) 教育課程の再編を通じて現行の授業内容も見直し、より個々の進路希望に対応できるような授業の質の向上をめざす。
- (3) 各教科の指導内容と進路実現との関係性を重視し、教科間の意思疎通を図りながら、相互補完的な学習指導を構築する。
- (4) ICT 機器の活用や研究発表等の機会を増やすことによって、生徒の学習意欲や自己表現力の向上をめざす。
- (5) 生徒個々の学力測定を綿密に行い、計画的な学習スケジュールを提供し、家庭学習の定着化を図る。

【進路成果指標】3 年生時点における第 1 志望大学の合格率 90%以上。国公立大学及び難関私立大学合格者数の合計 15 名以上。

※生徒向け学校教育自己診断における進路実現に関する項目における満足度（平成 25 年度 80%）を毎年 3%引き上げ、平成 28 年度には 89%にする。

3 文化・芸術・スポーツを愛し、心豊かな感性を持つ生徒の育成 — 特別活動の充実 —

- (1) 行事や特別活動を通じ、生徒が自主的・主体的に参加できるような土壌を育成する。
- (2) 行事や特別活動を通じ、プレゼンテーション能力の向上をめざす。
- (3) クラス活動等の活性化から学校行事の質を向上させ、生徒の自己有用感の育成を図る。

※行事やホームルーム活動等の満足度（平成 25 年度 59%）を毎年 3%引き上げ、平成 28 年度には 68%にする。

4 地域や社会で貢献できるボランティア精神を持つ生徒の育成 — 地域連携の充実 —

- (1) 生徒会などと連携し、学校広報活動（学校見学会、体験入学等）や学校行事への生徒の主体的な参加を推進する。
- (2) 「地域との連携」の中から、生徒の自己有用意識を高めるため、地域の清掃活動や各種施設等に対する、生徒の参加の機会を増やす。
- (3) ホームページ等での情報発信力を高め、保護者や地域とのより綿密な連携を構築する。

※生徒向け学校教育自己診断における地域連携等に関する項目における満足度（平成 25 年度 43%）を毎年 5%引き上げ、平成 28 年度には 58%にする。

5 人の立場に立って考えることの出来る豊かな人権感覚を持つ生徒の育成 — 人権教育の充実 —

- (1) 安全安心な学校づくりの観点から、「人権教育基本方針」や「人権教育推進プラン」等に基づき、差別を許さない力と意志を持った生徒の育成をめざす。
- (2) 相談体制を高め、様々な課題を抱える生徒のサポートに対応するための環境整備を充実させる。

※生徒向け学校教育自己診断における人権教育等に関する項目における満足度（平成 25 年度 65%）を毎年 3%引き上げ、平成 28 年度には 74%にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【生徒指導】</p> <p>○「入学してよかった」や「学校へ行くのが楽しい」の項目が生徒向けでは昨年に比べて 4%下回っているが、保護者向けの数値は逆に 1%上がっており、82%が肯定的に捉えている。本校の特徴である、保護者からの評価が優れて高い傾向が見て取れる。一方生徒との対話等、個々の教員による努力が不可欠であることも課題としてあげられる。</p> <p>【進路指導等】</p> <p>○「進路指導等ガイダンスは適切に行われているか」や「進学・就職に向けての適切な指導」の項目で、生徒向け数値は昨年と変わらず高いものの、保護者向けの数値は依然高いとはいえ 5%下がっている。個人懇談等を通じて、各担任がきめ細かく相談に答えるための力量を、今後充実させていく必要がある。</p> <p>【学習指導等】</p> <p>○「授業がわかりやすい」の項目で、生徒向け、保護者向けともに 4~3%肯定的回答が昨年度より下回っている。教員相互の授業見学や、各教科の取組を研修主題に据え討議してきたが、授業改善に直結していないようだ。模範となるような授業を積極的に見学するなど、各自がもっと研鑽に努める必要がある。</p> <p>○「家庭での予習・復習など学習時間を確保している」の項目で肯定的回答が昨年より 2%上昇した。更に高めていきたい。</p> <p>○「授業で発表の機会がよくある」の項目における肯定的回答が昨年度より 4%上昇したが、まだまだ低い状態が続いている。来年度も課題として取り組む。</p> <p>【学校運営】</p> <p>○「ホームルーム活動やクラス活動は活発」や「部活動に積極的に取り組んでいる」の項目で肯定的回答が昨年より 5%以上上昇した。生徒主体の新たな取り組みも行われており、来年度につなげていきたい。</p>	<p>第 1 回 (6/24)</p> <p>○平成 28 年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化では、ESS など英会話クラブを立ち上げ、海外の高校生と相互交流することで、生徒のやる気や意欲が喚起されるのではないか。 ・プレゼンテーション能力の育成においては、学校内だけでやるよりも、広く他校や一般の市民向けに行うことも有効だ。書道など芸術に関する展示会などの機会を設けて、入場者に向けての説明をしたり、案内役を買って出たりすることで力が養われる。近隣の高校と合同でやってもよい。 ・小中生に基礎学習やドリルなどを教えることで、高校生も大いに勉強になる。 ・自宅学習の時間をより増やすことはなかなか困難だ。参考書や問題集を多用しがちだが、実は教科書を何度もやり直すことが学力を上げるコツだ。精選された問題を何回もやり直すことで基礎力が定着する。プリント学習も善し悪しだ。 ・英語の能力はこれからが大切で、年齢的にも今が伸びる時期だ。 <p>○次年度採用予定の教科書について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの教科書もよく工夫されているので、十分に活用することを勧めたい。 ・昔に比べて内容が素晴らしい。一般の社会人にも十分対応できる。 <p>第 2 回 (11/2)</p> <p>○第 1 回授業アンケートの結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリントに頼りすぎると学力が定着しない。むしろ教科書を有効に活用し、模範となる問題や解答を反復して練習することを勧めたい。 ・授業アンケートのスコアでは、2 点台の評価には真摯に受け止めるべきだ。3.5 以上の授業は見てもやはり素晴らしい。

府立八尾翠翔高等学校

・自由記述の中で、授業の進み方が早いといったものが見受けられる。進むペースが速い先生が多いのか、生徒が進度に合っていないのか検証する必要がある。あるいは、1・2年までとは異なり、3年次は習熟度別授業から離れることが原因かも知れない。

・授業は厳しく、かつ分かり易いのが良い。

○若手教員スキルアップ研修について

・不登校などは大学でもあり、これといった理由が見いだせない長期の欠席等は解決が困難だ。

・昨今問題となっている発達障がいなどは、高校生段階で判る場合が多い。授業についても、プレゼンテーションソフトでの説明では理解できない生徒や、話しながら説明すると、途端に理解できない生徒もいることを前提に考える必要がある。

○その他

・9月18日に八尾市で行われた英語弁論大会で、多くの本校生徒が優秀な成績を修め、中には、将来の留学や進路選択に展望が広がる者も見受けられた。

・9月26日には、昨年本校生が海外語学研修でお世話になったオーストラリアのマランダ高校の一行が本校を訪れ、学校をあげて歓待した。各クラスにマランダ高校の生徒や先生を招き、相互に交流する中で、積極的なコミュニケーションを実現することが出来た。

第3回(2/3)

○第2回授業アンケートの結果より

② 学校教育自己診断の結果より

・授業はやはり教科書を中心に指導するべきだ。模範解答に沿って反復練習したり、言葉で論述する力を身に付けることが大切である。

・1時間の授業の中で、教員が目標をはっきりさせ、生徒には振り返りをきっちりさせることが重要である。

・「授業の進度が速い」と答えている生徒がいるようだが、その原因は何かを探る必要がある。その一つとして、家庭学習の時間をとらせる習慣付けが必要である。

・授業は厳しくして、しかも分かり易いのが理想である。

○学校教育自己診断の結果より

・昨今の進路指導などは、入試制度等日々変化するので難しいと思う。

・オーストラリアの高校生が昨年秋に来校し生徒たちと交流したり、英語弁論大会に入賞するなど、活発に英語学習に取り組んでいるようだ。生徒がリラックスして気軽に話せる機会を今後も提供してほしい。

・生徒と保護者、保護者と教員間のコミュニケーションの取り方に工夫が必要である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒指導の充実	(1) あいさつ運動と生徒との対話の推進 (2) 社会ルールの獲得と自己表現力の育成 (3) 生徒の立場に配慮した生徒指導の充実	(1) 校内でのあいさつを積極的に推進し、対話を重ねることで、学校で楽しく生活することができる雰囲気を醸成する。 (2) <input type="checkbox"/> ア 授業の開始と終了時の号令、授業中の規律について生徒自らが徹底するように努める。 <input type="checkbox"/> イ 授業やHR活動にディベートなどを取り入れ、生徒が自ら考え発表する機会を充実させる。 (3) 生徒が気軽に相談できる雰囲気づくりに努める。	(1) 生徒向け学校教育自己診断における学校生活等の項目における肯定的回答の向上 ※平成27年度 65% →68%目標 (2) <input type="checkbox"/> ア 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答の向上 ※H27年度 67%→68%目標 <input type="checkbox"/> イ 生徒向け学校教育自己診断アンケートにおけるプレゼン能力の肯定的回答の向上 ※H27年度 36%→40% (3) 学校教育自己診断における教員と生徒の距離感に関する項目での肯定的回答の向上 ※H27年度 54%→57%	(1) あいさつの励行は、本校の特徴の一つとなっている。一方、生徒との対話が課題である。61% (△) (2) <input type="checkbox"/> ア 各授業での生徒による自主的な規律維持は達成されつつある。68% (○) <input type="checkbox"/> イ HR活動や行事等で生徒を前面に出す活動を増やした。来年度はこの枠を授業等に広げていく。40% (○) (3) 生徒の意見を汲み上げる取組を進める。50% (△)

府立八尾翠翔高等学校

2 進路指導の充実	<p>(1) キャリア教育指導の再構築</p> <p>(2) 授業改善に係るシステムの構築</p> <p>(3) 系統立てた教科指導の確立</p> <p>(4) 学習意欲向上と自己表現力の育成</p> <p>(5) 家庭学習の定着</p>	<p>(1) <input checked="" type="checkbox"/> 普通科専門コースへの改編に伴い、生徒向けの進路選択及び科目選択のガイダンスを強化する。 <input checked="" type="checkbox"/> 授業や調べ学習、セミナー等において、積極的にキャリアガイダンスセンターを活用する。</p> <p>(2) 教員相互の授業見学・授業研究週間を年2回実施し、教員の授業力の更なる向上をめざす。</p> <p>(3) 教科会議で育てたい生徒と身に着けさせたい学力を確認し、教科として3年間の指導計画を作成する。</p> <p>(4) <input checked="" type="checkbox"/> ICT 機器や視聴覚教材を活用して授業展開に工夫を加えるなど、生徒の学習意欲向上に繋がる授業づくりを推進する。 <input checked="" type="checkbox"/> グループ学習やペア学習、研究発表などの生徒による言語活動を活性化し、自己表現力の向上をめざす。</p> <p>(5) 生徒が継続的に家庭学習に取り組むために、教育産業による学力分析システム等を利用し、個々の学力目標に向けた学習計画を作成し支援する。</p>	<p>(1) <input checked="" type="checkbox"/>及び<input checked="" type="checkbox"/> ①生徒向け学校教育自己診断における進路指導、進路ガイダンスに関する肯定的回答の向上 ※平成27年度81% → 89%目標 ②卒業時の国公立大学及び難関私立大学学合格者数の合計15名以上</p> <p>(2) ①第2回授業アンケートにおける肯定的回答、全教科平均3%上昇 ※平成27年度78% → 82%目標</p> <p>(3) 教科会議を頻繁に開催するとともに、「各教科の指導計画」に関する校内研修を年1回以上持ち、教科間の議論を深める。 ※平成27年度教科会議8回 → 10回目標</p> <p>(4) <input checked="" type="checkbox"/>授業アンケートにおける肯定的回答の向上 ※平成27年度78% → 82%目標 <input checked="" type="checkbox"/>生徒向け学校教育自己診断アンケートにおけるプレゼン能力の肯定的回答の向上 ※平成27年度36% → 40%目標</p> <p>(5) 生徒向け学校教育自己診断における家庭学習状況に関する項目における肯定的回答の向上 ※平成27年度43% → 48%目標</p>	<p>(1) ①キャリアガイダンスステーションを有効活用し生徒のキャリア意識の向上に取組み、一定の効果をあげた。81% (△) ② 9名 (△)</p> <p>(2) 相互の授業見学週間を設定・実施し、教科ごとの分析発表会を開催した。全教科平均2.2%上昇自己診断アンケート79% (○)</p> <p>(3) 教科会議の中で、今後の方針等について議論する機会を得、職員研修での発表を行った。10回 (◎)</p> <p>(4) <input checked="" type="checkbox"/>英語科を中心に、ICT機器を常時利用する教科が増え、職員研修で検討した。さらに取組みを拡大する必要がある。自己診断アンケート79% (○) <input checked="" type="checkbox"/>プレゼン能力の育成を掲げてきたが、来年度も継続して進める必要がある40% (◎)</p> <p>(5) 家庭学習の呼びかけは一定の効果をあげているが、さらに推進する必要がある。45% (○)</p>
3 特別活動の充実	<p>(1) 生徒の主体的な活動の活性化</p> <p>(2) プレゼンテーション能力の育成</p> <p>(3) ホームルーム活動の活発化</p>	<p>(1) 学校行事等の企画・運営段階からの、生徒の積極参加を促す。</p> <p>(2) 学校行事や総合学習での生徒のプレゼンテーションの機会を増やす。</p> <p>(3) ホームルーム活動を生徒の主体的な活動と位置づけ、生徒会活動や部活動を中心に、生徒の意見を吸い上げ、その活性化を図る。</p>	<p>(1) 学校教育自己診断アンケートにおける肯定的回答の向上 ※平成27年度52% → 55%目標</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断での、プレゼン機会の肯定的回答の向上 ※平成27年度36% → 40%目標</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断の肯定的回答の向上 ※平成27年度58% → 60%目標</p>	<p>(1) 年を追って生徒を前面に活動する機会が増えてきた。来年度も継続して推進していく。54% (◎)</p> <p>(2) 目標を達成したが、まだ数値的には低いので、継続して進めていく。40% (○)</p> <p>(3) 目標以上の成果を得た。さらに新しい活動の導入などを進めていく 63% (◎)</p>
4 地域連携の充実	<p>(1) 学校広報活動への生徒による主体的参加の推進</p> <p>(2) 生徒による地域進出の推進</p> <p>(3) 情報発信力の再構築</p>	<p>(1) 学校説明会や体験入学において、生徒会役員・クラブ員・その他有志の生徒を積極的に主体的に参加させる。</p> <p>(2) 曙川東地区を中心とした清掃活動や、地域の保育園・高齢者福祉施設等と連携した生徒の活動を増やし、地域に根付き地域から愛される学校をめざす。</p> <p>(3) 本校の良さを、積極的に地域に伝える。</p>	<p>(1) 生徒を中心に置いた広報活動の展開。司会・案内を生徒が中心となっていく。 ※H28年度：延べ100人参加目標</p> <p>(2) 地域活動へのボランティア生徒の参加者数 ※H28年度：延べ300人参加目標</p> <p>(3) ホームページを刷新する。</p>	<p>(1) 生徒会やクラブに所属している生徒を中心に、延べ150人の参加をみた。(◎)</p> <p>(2) 赤い羽根募金や校外一斉清掃など、生徒主体の活動が増えた。これからは、さらにボランティア意識向上をめざす。 350人 (◎)</p> <p>(3) 今年度中に刷新完了 (○)</p>
5 人権教育の充実	<p>(1) 安全安心な学校作りの推進</p> <p>(2) 生徒相談体制の環境整備</p>	<p>(1) 不登校や問題事象の兆候を感知できる教員力を強化するとともに、生徒が、命の大切さや人権についての意識を高めるような指導を充実させる。</p> <p>(2) 様々な相談に対応できるように、関係教員のスキルアップを図ると同時に、発達障がい等に対するケアについても的確に指導できる体制を構築する。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断の人権意識に関する項目における肯定的回答の向上 ※H27年度72% → 74%目標</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断の教育相談等の項目における肯定的回答の向上 ※H27年度47% → 50%目標</p>	<p>(1) 人権ホームルームや講演会を企画・実施した。さらに継続して実施していく。72% (○)</p> <p>(2) 教員向け研修やサポート委員会あの活性化を図った。目標達成に向けて継続して努力する 46% (△)</p>